

# 平成29年度 第1回総合教育会議議事概要

平成29年6月1日(木)に平成29年度 第1回総合教育会議が開催され、「子どもたちをどう育てるか」について意見交換が行われました。

第1回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

## 平成29年度 第1回総合教育会議 議事概要

日時:平成29年6月1日(木)

午前10時30分～午前11時30分

場所:惇明小学校 大会議室

### ■出席者(敬称略)

教育長 端野 学

教育委員

倉橋 徳彦、塩見 佳扶子、和田 大顕、大槻 豊子

市長 大橋 一夫

事務局

市長公室長、経営戦略課長

### ■市長あいさつ

- ・平成27年5月に新たな教育委員会制度のもと、福知山市でも総合教育会議が立ち上げられた。
- ・昨年度までに福知山市教育大綱を策定・見直しし、様々な教育課題について意見交換を行い、本市の教育施策の方向性について意識共有をしてきた。
- ・この会議を通して本市の教育の振興が図られるよう期待する。

### ■議事

意見交流 テーマ「子どもたちをどう育てるか」

#### 市長

- ・本日は、「子どもたちをどう育てるか」というテーマで意見を交換したい。
- ・論点としては、①どのような子どもの育成をめざすのか、次に②そうした子どもにどう近づけていくかについて、意見交流を進めたい。
- ・はじめに、①どのような子どもの育成をめざすのかという点について、意見をいただきたい。

#### 塩見委員

- ・高度情報化が進み、経済格差・学力格差等、青少年を取り巻く環境が厳しくなる中、弱者への痛ましい事件や事故が後を絶たない。
- ・社会の変化に主体的に対応できる子ども、生きる力を持った子どもを育成したい。
- ・市と教育委員会が細かに連携しながら取り組んでいきたい。

#### 大槻委員

- ・子どもが夢を持ち、その夢が実現できることを願っている。
- ・夢を実現できるための最低限の学力を身につけてほしい。
- ・様々な経験をして、たくさんの選択肢から夢を見つけてほしい。
- ・福井県越前市に視察に行った際、すべての小学校5年生が、トップアスリートから自身の体験談を聞けるような取組をされているのを見てきた。同様の取組を福知山市でも実施してほしい。

#### 市長

- ・先ほど塩見委員が情報化社会とおっしゃたが、IOTの活用については、日本は遅れている。人口減少社会においても、AIを活用すれば生産性は落ちないという人もいる。AIの活用についても考えていくことが大切である。
- ・家庭環境により、子ども自身がどうしようもないことで格差が出るというのは考えなくてはならない。
- ・大槻委員がおっしゃったように子ども自身が体験を通して実感できるということは大切である。本物を実際にみることで自己実現の方向性が見えてくる。

- ・福知山市の子どもたちにとって強い期待とご意見をいただいた。本市の教育目標に向かって推進していきたい。
- ・次に、どのようにしてめざす子ども像に近づけていくかについて、ご意見をいただきたい。

#### 塩見委員

- ・学校教育を中心に、家庭、地域、行政が連携しながら、それぞれの役割を果たしてほしい。
- ・学校は、確かな学力、個に応じた基礎・基本の学力を身につけさせ、望ましい人間関係を構築できるようにさせる場所である。自分の思いを自分の言葉で表現できる力、思考力・判断力・表現力を身につけさせたい。
- ・近頃は家庭の教育力が低下しており、家庭環境により格差が生じている。家庭は、基本的な生活習慣を身につけさせていきたい。家庭学習についても願う。
- ・地域あつての学校だと考える。老人会、婦人会等の団体に学校に来ていただき、子どもたちが先人の知恵を拝借できるようにしたい。
- ・行政には、安心・安全・快適な環境づくりをお願いしたい。経済格差への対策や就学支援策についても願う。

#### 大槻委員

- ・家庭の教育力の低下についてだが、基本的な生活習慣の確立はどのような家庭であってもできる。
- ・家庭学習や家庭での見守りについては、共働き家庭が増える中、難しい点もある。
- ・地域未来塾等のように家庭と地域が分担してやっていきたい。
- ・SNSのトラブルについては、スマホ等を持たせる保護者にも責任がある。親自身もSNSを使いこなせるように、行政からもSNSの活用について情報提供をお願いしたい。

#### 和田委員

- ・育てるという文字は、「そだてる」とも読むし、「はぐくむ」とも読む。学校は、教えて「育てる」色合いの強いところであるが、主に人格の育成を担う家庭教育・社会教育においては、命を大切にする等、「育む」ことを学ぶ。
- ・学校教育と家庭教育・社会教育が同じ方向で連携することが大切である。
- ・育むという観点から、意見とお願いをさせていただく。
- ・どう育てるかについては、私たち大人が、どのようなまちづくり・地域づくりをするかが大切である。市の各種計画において、子どもが動く姿が見えてこない。
- ・本市には、様々な分野で自身の専門性を高めておられる人が多い。その人と子どもをつなぐことで、市民ひとりひとりの生活が豊かになる。
- ・幼少期から青年期に見たこと、感じたことは心に残る。本物が持つ素晴らしさに触れることが重要である。
- ・福知山市には豊かな文化と恵まれた自然がたくさんあるので、活用をしていきたい。
- ・子どもを地域の行事に参加ではなく、参画させることが大切である。最近のニュースで、地域体験を経験した子どもは逆境に強いとあった。
- ・教育というものは、育てた結果が出るのに時間がかかり、投資した金額の効果も見えにくい、市には一層の力添えをお願いしたい。

#### 市長

- ・学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を考えて、育んでいくことが大切である。学校だけが、子どもを育むのではない。地域全体で育てるという考え方を大切にしたい。
- ・共働き家庭において、すべてパーフェクトにこなすのは難しい。地域未来塾等、行政が手助けできることはしていきたい。
- ・子どもが地域活動に参画していくことは、生まれ育ったふるさとを大切に思う心を育てることにつながる。

- ・地域全体が一体となり、政策に取り組んでいきたいが、計画的・戦略的に取組を進める必要もある。その点について、ご意見をいただきたい。

#### 倉橋委員

- ・どのような子を育てるかという目標を明確にしたのは大きい。学校教育改革推進プログラムにおいて、方法論も明確に具現化して施策を推進してきた。
- ・転勤等により福知山市を出られた人からも、福知山市の外にでて初めて福知山市の良さが分かったとの話を聞いている。また、福知山市で教育を受けさせたいと福知山市に戻ってきたという人もいる。これらの話から、福知山市が進めてきた教育に間違いはなかったと思っている。
- ・地道に今の取組を進め、地域や保護者にその姿が見えたら、信頼も得られると思う。
- ・英語教育等の先進的な取組をしている他自治体に学び、福知山市で何ができるかを考え、特色ある教育の取組をしていきたい。

#### 教育長

- ・福知山市の子どもたちの今の姿については、小学6年生と中学3年生を対象に平成28年度に実施された全国学力・学習状況調査の結果により、各学校が把握している。
- ・学力も大切だが、コミュニケーション能力は最も身につけなくてはいけない力である。
- ・大前提として、子どもは総合的に育つ。シームレス学園構想に基づき、各教育課程のつながりを円滑にしていく必要がある。
- ・家庭や地域との連携は必須である。学校がしていること、やろうとしていることを明確に宣言し、地域等に協力をお願いしていく必要がある。
- ・家庭格差等の環境に配慮した学校運営が重要である。
- ・地域や保護者から信頼されるために、「教育のまち福知山」であるため、関係機関が協力し、あの手この手で考えていきたい。

#### 市長

- ・先進的な取組についてご紹介いただいたが、他にもどのような取組があり、どのような課題があるかをよく見たうえで、福知山市への導入について検討したい。
- ・コミュニケーション能力というのは実に大切である。これからは、プレゼンテーションをしてディベートをする能力がないと難しい。良い人間関係を築き、自己表現ができるようになっていかなければならない。
- ・教育のまち福知山は、みんなで一緒につくっていくかなければならない。
- ・子どもを中心にきちんと考えることが大切である。

#### ■教育長あいさつ

- ・これからもこのような機会を持ち、色々な思いを聞かせていただきたい。教育委員会としても、課題があるからやらないというのではなく、課題を乗り越えながら取組を進めていきたい。